

5月14日(木曜日)「エリヤからエリシャへ」

【新改訳 2017】

I 列王記19・15－21

「主は彼(エリヤ)に仰せられた。『さあ、ダマスコの荒野へ帰って行け。……また……シャファテの子エリシャに油をそそいで、あなたに代わる預言者とせよ……。』……エリヤはそこに立って行って……エリシャを見つけた。……」(15－19節)

神は、どの時代にもご自分のみわざを進められます。そして、そのために絶えずいろいろな人物を選び出して用いられます。今も同じです。

今、エリヤの役目が終わろうとしていた時に、エリシャを後継者として指名されました。エリヤは彼を見つけ、預言者の象徴でもあったと思われる外套を彼に掛けて召命を知らせたのでした。

エリシャは家族に別れを告げてからエリヤに仕え、預言者としての道を歩み始めました。II列王記2章に続きます。

預言者たちの生涯は、現代の私たちはあまりに神秘的で理解に苦しむこともあります。しかし、神への絶対的服従の姿は見習わなければなりません。

～祈り～

主よ。あなたのみこころとわかった時には、喜んでそれに従うことができるように助けてください。

【学びのために】

エリシャはアベル・メホラという町の出で、シャファテの子。Ⅱ列王1-13章にその働きが記されています。4代の王に仕え、約50年間活躍しました。